

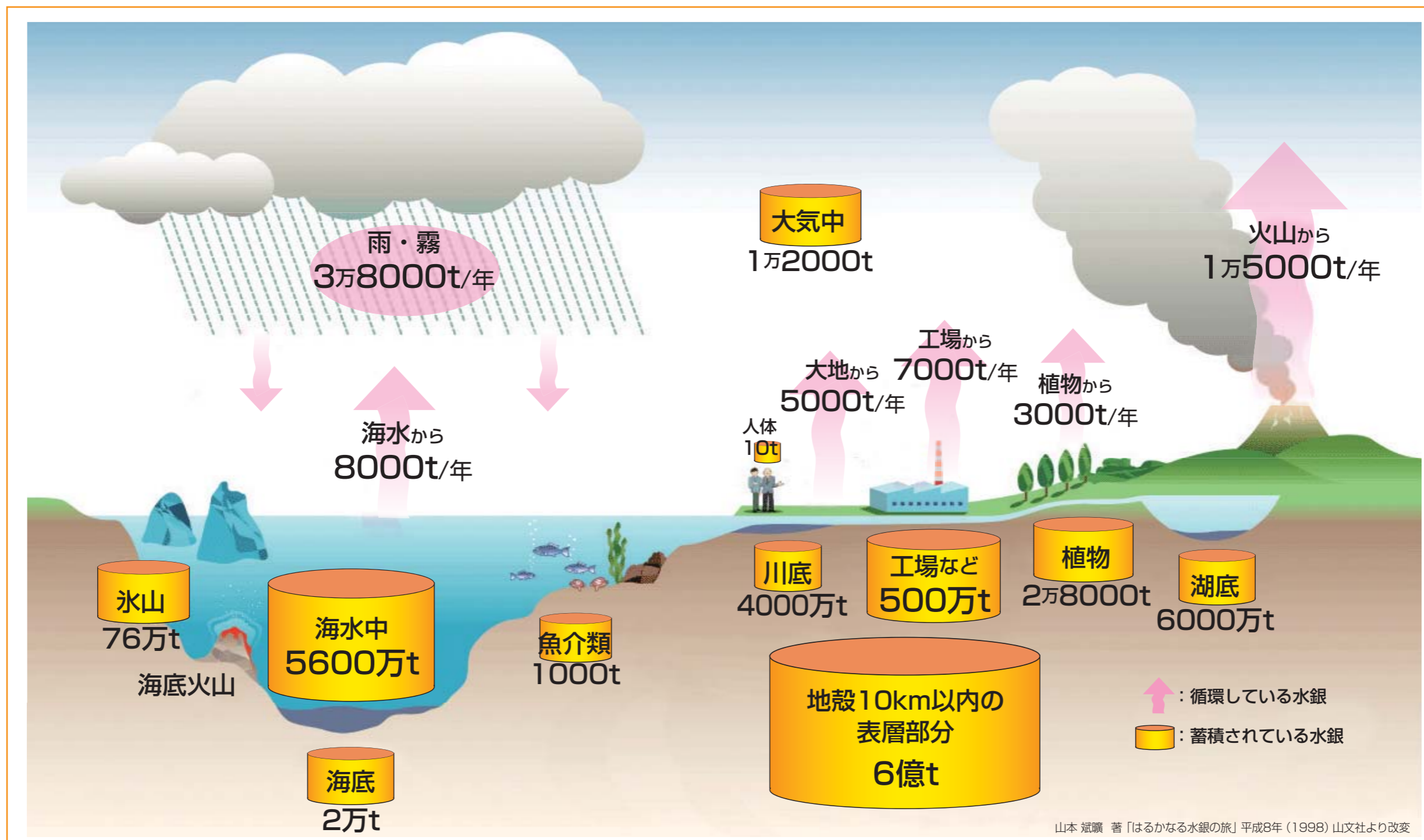
地球上 どこにでも存在する「水銀」

水銀は、地球上どこにでも存在する物質です。もとは、岩石や土壌に含まれていましたが、火山の噴火や地殻変動など46億年にわたる地球の自然活動により、大気中に排出されました。それが雨と共に地表に降り、河川や海水中にも存在するようになったのです。

しかし、産業革命以降は、自然活動による放出だけでなく、水銀の採掘や化石燃料の消費など人為的な活動による放出が増加したため、生物中の水銀の蓄積量が増加しています。

さらに、近年、経済成長著しい中国等東アジア諸国で、石炭火力発電所等から石炭に含まれる水銀が多量に排出されているため、日本を含む諸外国に与える影響が懸念されています。

地球の歴史の方がはるかに長いため、魚介類に蓄積している水銀のうち、人間が放出してきたものはごく一部と考えられますが、わたしたちは、人為的な水銀汚染を防ぐためにも、環境中に放出する水銀の量を減らす努力を続けることが大切です。



山本 斌曠 著「はるかなる水銀の旅」平成8年(1998)山文社より改変